

一口に川を遡（さか）のぼる魚といつても、サケやマスは産卵のために餌も食べずに遡り、卵を産むと死んでしまいますね。一生の大半

6月に入つて解禁になつた由良川筋にはたくさん釣り人がアユを狙つて押しかけています。でも、今年は春の海水温がかなり低かっただために遡上（そじよう）も遅れ気味の様子で、天然アユはまだ小振り。各地の釣り情報を見てみてもあまりぱつとしないようです。

一口に川を遡（さか）のぼる魚といつても、サケやマスは産卵のために餌も食べずに遡り、卵を産むと死んでしまいますね。一生の大半

なつた由良川筋にはたくさん釣り人がアユを狙つて押しかけています。でも、今年は春の海水温がかなり低かっただために遡上（そじよう）も遅れ気味の様子で、天然アユはまだ小振り。各地の釣り情報を見てみてもあまりぱつとしないようです。



今年、由良川で釣れたアユ

日本海に遊ぶ

京都大学水産実験所職員
上野 正博

なぜ川を遡る

て産卵のために海に下ります。こちらは一生の大半を川ですごすので降海性回遊魚です。

でも、アユは卵からかえつたばかりの仔魚のときに海に下り若魚になります。そして川に上つ

でも、アユのこういふ形の歯が発達してくるのです。この歯が

アユはベトナムからロシアのウラジオストックあたりまでの東アジア一帯にいますが、長江（揚子江）や黄河など大陸の大平原を悠然と流れる大河にはいません。日本のように海

の大きさになると、コケをかじりとるのに便利な櫛（くし）のよ

くさんいるコイやフナ、ハヤなどが食べること

あるおかげで、川にいたアユは、川底の石につく珪藻（けいそう）やらんのためだけに遡上をし藻などのいわゆるコケをかじりとつて食べます。川を遡る7ヶ月くらいをかじりとつて食べます。これが、餌が一番必要な成長期を川で暮らすことができるというわけです。

でも、アユのこういう食性はアユが暮らせる川の条件を限られたものにしてしまいます。アユはベトナムからロシアのウラジオストックあたりまでの東アジア一帯にいますが、長江（揚子江）や黄河など大陸の大平原を悠然と流れる大河にはいません。日本のように海の近くまで山が迫り、コケが生える石のある瀬が河口からせいぜい数十キロまでにある川でないと暮らすことができないです。